

# 第1回多治見市地域福祉計画策定委員会議事録（案）

日 時：令和4年9月29日（木）

14:00～15:30

場 所：多治見市駅北庁舎4階第2-3会議室

出席委員： 安藤 秀章委員、井奈波 文治委員、加藤 孝春委員、加藤 泰治委員、澤田 誠代委員、柴田 勇夫委員、杉原 裕子委員、高木 浩二委員、高橋 重久委員、竹内 恒夫委員、竹藪 洋委員、樋田 安美委員、星野 保隆委員、山田 隆司委員、（50音順）

事務局： 福祉課長：大山 克則、福祉課：島津 和世、同 前田 ひさ佳

1 あいさつ

2 委員自己紹介

3 議題

（1） 委員長、副委員長の選出

（2） 地域福祉計画の概要説明（資料1、2）

（3） 計画策定の進め方及びスケジュールについて（資料3）

（4） 地域福祉計画見直しにかかる市民意識調査について（資料4、5）

（5） その他

○福祉課長 ただ今より第1回多治見市地域福祉計画策定委員会を開催する。委員長が選出されるまで司会進行をする。

（福祉部長あいさつ）

（各委員自己紹介）

○福祉課長 資料の確認、会議の公開、会議の成立について、事務局から説明する。

（事務局 資料確認、会議の公開、会議の成立について説明）

○福祉課長 委員長及び副委員長の選出についてを議題とする。「多治見市地域福祉計画策定委員会設置要綱」第5条の規定により、委員長及び副委員長は委員のうちから選出するとなっている。推薦等あるか。

特にないようであれば、事務局に案があるので、発表してよろしいか。

（異議なしの声あり）

それでは、委員長は安藤委員に、副委員長は柴田委員にお願いしたいがどうか。

（異議なしの声あり）

○福祉課長 御承認いただいたので、安藤委員は、委員長席に移動をお願いします。

（安藤委員、委員長席に着席）

○福祉課長 それでは、ここからの進行は、委員長をお願いします。

○委員長 それでは、議題2 地域福祉計画の概要説明についてを事務局から説明願

う。

(事務局 資料により説明)

- 委員長 事務局の説明について、質問や意見はあるか。
- 委員 前回より一番変化した点は、ウィズコロナで生活様式も社会情勢も大きく変化している。その点を第5期地域福祉計画に反映させることが重要だと思う。
- 委員長 コロナの影響で地域の行事が少なくなり、地域とのつながりが希薄になっている。それに加えて、町内会に入らない世帯が増え、社会福祉協議会への負担金も少なくなっている。防災訓練においても、訓練に参加しない人の家が火災になった時の対処ができない。地域を活性化するためにも、要支援者の災害時の対処の仕方や災害で水も電気も使えなくなった場合等の地域の助け合いが非常に重要になる。それらを踏まえて第5期地域福祉計画を進めていきたい。これに関しての意見はあるか。
- 委員 地域福祉計画の概要については概ね理解できる。第4期地域福祉計画がうまくいったのかどうか。やってみて問題点はあったのか等の進捗状況を教えて欲しい。
- 事務局 第4期の計画については、概ね計画通り進んでいる。
- 委員 地域福祉計画と他の計画と計画期間にずれがあるが調整のすり合わせはするののか。
- 事務局 地域福祉計画の評価期間に各計画の最新が反映されるので期間のずれは問題ない。
- 委員 資料1の健康づくり計画について、国の計画で健康日本21が令和5年度までなので、多治見市の健康づくり計画も1年延長になった。それに伴い次の計画の始まりも令和6年となる。
- 事務局 多治見市健康づくり計画期間の終わりを、令和4年度から令和5年度に修正する。
- 事務局 補足説明をする。地域福祉計画と各計画の連携については、地域福祉計画が法律に基づいて各計画の柱を組み立て、各課が行う事業については、福祉課が関係課に照会をかけてどのように地域福祉計画に組み込んでいくのか適宜、調整しながら進めている。
- 委員長 他に質問はないか。

(その他、質問、意見なし)

- 委員長 それでは、議題3 計画策定の進め方及びスケジュールについてを事務局から説明願う。

(事務局 資料により説明)

- 委員長 事務局の説明について、質問や意見はあるか。
- 委員 障害者福祉計画と地域福祉計画は連携がとれているのか。
- 事務局 各々の計画策定の主体は各課ではあるが、委員会には同じ委員が出席いただくケースもある。高齢福祉課や子ども支援課及び福祉課は同じ福祉部なので、部内でも情報共有をしているし保健センターとも連絡調整をしている。

- 委員 それぞれの計画が地域福祉計画に反映されているかを心配されているが、期間はずれてはいるが、地域福祉計画の理念・構想は変わらないので、地域福祉計画の中にそれぞれの計画があると考えれば分かりやすい。
- 委員 自分も他の策定委員会に出席しているが、それぞれの計画の調整がとれていればよいのではないか。
- 委員 委員会での情報を所属協会の会員に共有し、意見を聞いてこの計画に反映することができる。
- 委員長 他に質問等ないか。  
(質問、意見なし)
- 委員長 それでは、議題4 地域福祉計画見直しにかかる市民意識調査についてを事務局から説明願う。  
(事務局 資料により説明)
- 委員長 事務局の説明について、質問や意見はあるか。
- 委員 回収率を上げるために、各団体の意見交換会等で配布したらどうか。
- 委員 前回までが無作為抽出なので、条件を変えてしまうと過去との比較ができなくなるのではないか。コロナ関係の質問を増やした方がよい。最後だけコロナ関係の質問では少なすぎないか。第4期地域福祉計画策定から年数が経っているので、第5期地域福祉計画に時代の変化をどのようにとりいれたらよいか重要になってくる。このままだと、第4期と同じパターンになってしまう。例えば、高齢者の単身世帯のことや町内会の加入率の減少さらにボランティア団体メンバーの固定化と高齢化等を、5年先の変化に合わせてプロセスを組むことが重要。また、コロナの影響で各団体が活動できずに消滅している。これらのことから、地域のつながりを考え直す必要があるのではないか。
- 委員 第4期地域福祉計画の第3章で各事業が評価されているとなっているが、その評価は相対的なものなので、具体的に分かりやすいものにして欲しい。ボランティアの募集をしても人が集まらないし、住んでる人もわからない。そんな状態で、火災等が起こった時にどうしたらよいのか等の質問を入れたらどうか。
- 委員 土岐市にイオンができたことで多治見市の店が移転してしまう。店が少なくなると人が集まらない。町内会の集まりに人が出てこないし、65歳や70歳の人も働く世の中になったので、地域活動の参加は難しい。
- 委員 アンケートをなくしてしまう人がいるので、アンケート用紙を色付きにしているかどうか。4ページの地域福祉協議会の注釈では解らない人が多いので、具体的に「ふれあい〇〇」等を入れたらどうか。
- 委員 2ページのヤングケアラー問題はこれから重要になってくる。また、日常生活支援制度事業や空き家問題をアンケートに組み込んだらどうか。町内会の入会については、根本的な問題があるのではないか。
- 委員 アンケート内容が、12歳の子どもには難しすぎないか。対象を15歳か18歳

以上にしたらどうか。

- 委員 地域福祉計画が何をやっているのか見えにくい。広く市民の方に配布した方が回答の偏りがなくていいと思う。50%の回収率ではあるが、逆に50%の人が福祉に関心がないとか、地域の団体に入りたくない意向を持っているとも読める。
- 委員 3ページの間9や問10から福祉分野は非常に広いことが伺えるので、多くの方の意見を取り上げることが計画につながっていくことになる。
- 委員 地域福祉計画はざっくりとした計画なので理解しづらいが、個別具体的な計画は各課が行っている。コロナの影響で地域のつながりの希薄さが、今まで以上に地域社会の問題を見えにくくするのではないか。今後、そうした問題がどれだけ影響するのか。また、2025年には団塊の世代が75歳を迎え高齢化社会が増々加速するなかで、これらの社会情勢を踏まえて、計画にどれだけ盛り込めるのかが課題になってくる。
- 委員 第4期地域福祉計画と第5期地域福祉計画との違いは、コロナの影響で地域のつながりの希薄さが加速していることが大きい。ボランティアの担い手の減少や人口減少が着実に起きてくることを踏まえて計画を考えていくことが重要。12歳の子どもをアンケートの対象にすることについては、将来の地域の担い手になる子どもの視点を反映させることが重要なので、本人がアンケートに答えられないとしても対象にした方がいい。
- 委員 コロナ前とコロナ後では社会情勢も市民の意識も相違する。11ページの間37のコロナ関係の問題を最初の問題にして、そこから枝番で質問を増やしていったらどうか。コロナに対する意識を持ってもらって、質問をすすめていく形式ではどうか。
- 委員長 以上のことを踏まえて、内容については事務局で考えてもらうことでよいか。  
(質問、意見なし)
- 委員長 アンケートについて、次回の委員会までに意見をまとめておいていただきたい。その他、事務局から説明願う。  
(事務局、説明)
- 委員長 これをもって、第1回地域福祉計画策定委員会を終了する。